

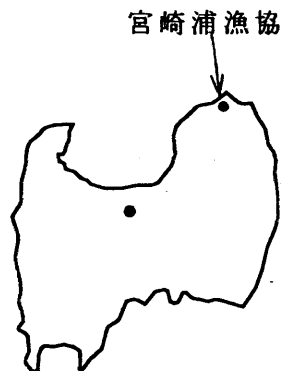
私達の婦人部活動

宮崎浦漁協婦人部

部長 竹谷てる子

1. 地域の概況

私達が住む宮崎地区は、富山県と新潟県の境をなす富山県東端に位置し、南側背後には3,000m級の山々がそびえ立ち、東西15kmの細長い平地に半農半漁の民家が約200戸余り、旧国道沿いと海岸線の間にはひしめいているところである。昔から<ヒスイ>がうち上がるという海岸線が有名で、日本の渚百選にも選ばれ県内はもとより、遠くは長野県や岐阜県からの行楽客が、年間通じて特産の灰付ワカメやタラ汁等を含めた新鮮な魚介類を求めて訪れてくる。



2. 漁業の概要

主な漁業種類は大型・小型定置網が4ヶ統4隻、かにかご1隻、他刺網船が大小20隻余りで、年間の水揚げが3億4千万円余りである。

3. 研究グループの組織と運営

宮崎浦漁協婦人部は、ある程度漁業に携わり、主人と共に浜に根づいた婦人の集まりが増えつつある時、婦人会の会長の協力指導のもとで昭和37年に発足して以来35年が経った。発足当時約200名で結成されたが、社会情勢の変化に伴い自然と職業が多様化し年々漁業従事者の数が減り、婦人会より分裂し正組合員の奥さん達で新たに組織を作り、現在部員数54名と大きく減少している。活動費は漁協からの助成金と朝市や魚まつりの収益金で運営をしている。部長、副部長、事務局以下15名の運営委員を中心に活動を進めている。

4. 研究・実践活動課題選定の動機

私達の婦人部はなかなかリーダーがいなく活動も停滞していたが、地道な活動の中で年々徐々に部員も増え理解もされ、協力して頑張ろうという若い部員が積極的に声を出してもらい、まわりの人達に助けてもらいながら部長を引き受けた。

宮崎漁港では富山県の港で一番荒波で四季の天候の変化が厳しいため、漁船が接岸している岸壁の上部は、雨風や冬の雪で寒い時でも漁業者が安全に作業しやすく漁具の保管にも適した、ユニークな高架橋（宮の橋）になっている。これは日本でもめずらしい橋だと聞いている。その橋の完成により漁民は大きな恩恵を受けることになったため、「天候に左右されないその橋の下で完成祝もかねて何かイベントを」との話しが持ち上がり、婦人部の活動の再出発にと思い、漁協と一緒に主催という形で参加することにし

た。

5. 研究・実践活動状況及び効果

朝日町地区より山側農村部に「朝日なないろ特産会」というグループがある。以前より農村女性グループが、朝に摘み取った野菜・花・加工品等を主な産品として、近在地区の方々や近くにある有名な「百豚美術館」を訪れる観光客に特売していた。そのグループの方々や町の農林水産課と農業普及センターから漁協婦人部に声がかかり、私達も7月と8月の毎週日曜日に、午前8時より午前10時まで宮崎特産の灰付ワカメ、塩乾物、無公害わかしお石けんなどを販売した。昨年は、朝日なないろKANでの朝市に参加し、野菜の販売が多い中で塩乾物が大変喜ばれた。宮崎特産の灰付ワカメとは、5月上旬から中旬にかけて、宮崎地区の漁業者が組合が決めた日の朝、合図で60隻ほど一斉に出漁し、収穫したワカメを家族総出で海岸砂浜に天日干しをする。人手が多くいるためにこの日ばかりは小中学校も休みとなるほどであり、富山県の風物としても有名である。収穫した生ワカメは、天日で干す前に、ワラ灰をまぶしよく揉み上げるようにして干す。大きい物は半分に割る。十分に乾燥させてから保管するが、長期間経過すると溶けてしまうために、早めに食すれば香り、肉厚の緑色の柔らかいワカメが食することができるという物である。

この朝市への参加を契機として、漁協と婦人部の主催で「第1回みやざき魚まつり」を開催する事になった。初めての企画なのでとまどったが、朝日町農林水産課、農協女性部の協力もあり、先に述べた農村女性グループの格別な心暖まるご支援を受け準備を進めることになった。

予算がないので開催ポスターを古いカレンダー等を利用して手書きで仕上げ、人通りが多く比較的人目につきやすい所に張り出した。更には、漁協に新聞折込用のチラシを作ってもらい、隣町の入善町と朝日町に配布して宣伝した。

宮崎で獲れた、きときと魚の販売と海の幸がたっぷり入ったおいしい大漁鍋をPRして消費者との交流の輪を広げようと企画したものの、当日の天候や大漁鍋に入れる材料の魚、消費者の出足など心配しながら当日を迎えた。

幸い、朝から穏やかに晴れあがった絶交の天候に恵まれた。会場となる「宮の崎橋」の下には大漁旗が飾られ、この行事に賛同してくれた漁船からは景気を盛り立てる海の唄が海上一杯に流れるなどお祭りムードを盛り上げ、賛同関係者の出店が完全に準備できて出並んだ頃には大勢の人が集まっていた。

特に当日の目玉「大漁鍋」コーナーの前は行列が出来るほどで、予想をはるかに上回る出足のために私達婦人部員は手を休める間がなく、当初予定していた400食の大漁鍋は倍の800食が売れた。お客さんの中には、一度味見しておいしかったのだろうか、早速家に戻り大きな鍋を持ってきて何人分か買い求めて行く人もいたほどだった。

昨年は、アンケートで部員の半数以上の賛同を得て、第2回みやざき魚まつりを開催した。

この売上金が私達の大きな活動資金になるほど、魚まつりによる活動費の確保をある程度期待していたことは事実だが、何よりうれしかったのは、私達「宮崎浦漁協婦人部」

が魚まつりを盛大に終えることができたことと、部員同士の親睦並びに隣接の町民とのふれあいを少しでも深めることができたことであつた。

近年、漁業者後継者が少なく、趣味と実益を兼ねた人が目につく。婦人部の部員であるという自覚が望まれる。ただ、私達婦人部が漁協と連携を取りながら、魚まつりと朝市を成功させたという実績は、これからの婦人部活動に力強い励みになり、まずは段階を一步進んだことが成果と言えらると思う。

6. 波及効果

婦人部活動を行うに当り、部員が積極的に参加してくれないと何もできない。活動の楽しさと必要性の認識を深め、後継者の育成にも努力しなければならない。その様な事を少しでも理解し協力を期待する手だてではないものかと、漁協にもお願いして部員相互の親睦を深めるため、組合長さんにも出席していただき夕食会を兼ねた懇親会を開き、色々な意見を聞く場を設けた。その後、運営委員会を開いて部員の声も十分に取り入れて無理のない1年間の計画を立てた。

- ① 漁協による年1回の宮崎漁港周辺の一斉清掃は部員全員が参加する。
- ② 部員50名余りのアンケートを実施して賛同を得た年1回の研修旅行を、部員が全員参加しやすい漁業者定休日の土曜日に実施する。昨年は7月に黒部漁協婦人部の加工施設を見学した。
- ③ みやざき魚まつりの実施と朝市への参加。
- ④ 地区婦人会活動の中に環境問題についての研修会を計画してもらい、県漁連と連携しながら学習する。

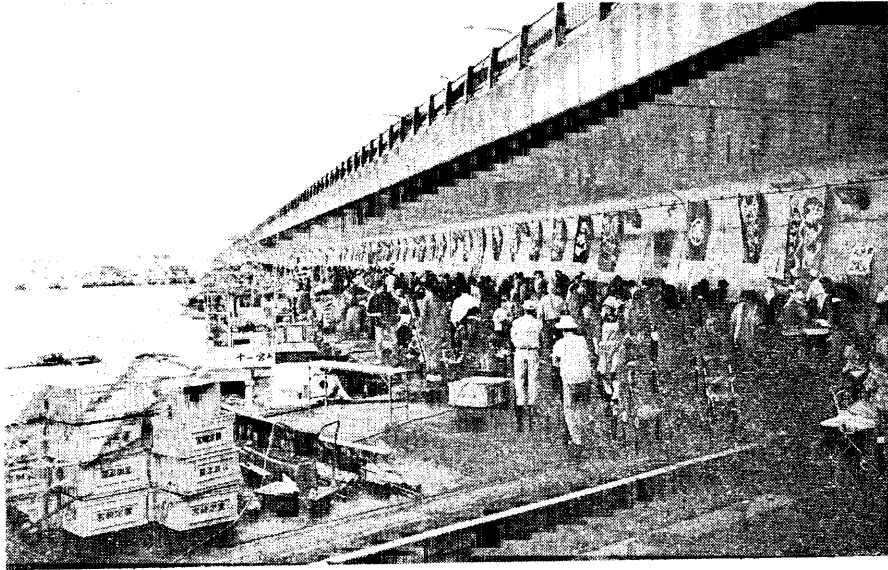
7. 今後の課題

最後に、漁協婦人部の意義は日々の地道な活動の積み上げにこそあり、部員相互の悩みや問題点を親身に話し合う場の中から活動テーマが自然に出てくるような開かれた漁協婦人部を目指して、今後も様々な課題に挑戦したいと思っている。

朝日なないろKANでの朝市



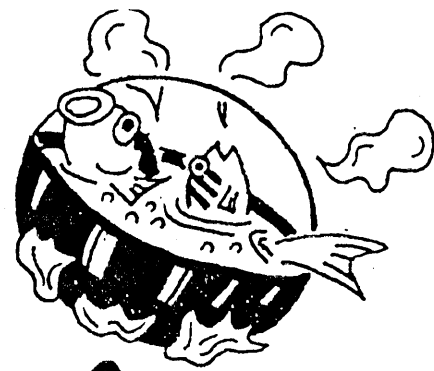
みやざき魚まつり



みやまき魚まつり

午前10時～午後3時まで

《雨天決行》



宮崎漁港内
宮の崎橋の下で
やってるよ!

うみ彦・やま彦・夢産地

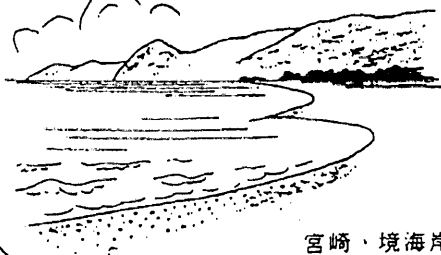


〔販売品〕

- ◆大漁鍋コーナー
- ◆キトキトの鮮魚
カニ販売コーナー
- ◆塩干物販売コーナー
- ◆漁業用資材・日用品
販売コーナー
- ◆農産物販売コーナー



『日本の渚・百選』認定



宮崎・境海岸

主催 宮崎浦漁業協同組合
宮崎浦漁業協同組合婦人部
共催 富山県漁業協同組合連合会
協力団体 朝日なないろ特産会
朝日町農村婦人グループ連絡協議会
朝日町婦人農業士協議会
J A 朝日町中央農協女性部
J A 大家庄農協女性部

〔会場案内図〕

